

No.108 会社訪問

代表取締役
会長兼社長 古屋 賞次 氏



日邦プレジジョン株式会社

会社プロフィール

代表者：代表取締役会長兼社長 古屋賞次

所在地：〒407-0175 山梨県韮崎市穂坂町宮久保734（本社・山梨工場）

TEL：0551-22-8998

FAX：0551-22-8996

設立：1984年（昭和59年）3月1日

資本金：5,000万円

営業所：甲府営業所、名古屋事務所、京都事務所

事業内容：半導体製造装置、検査装置および液晶パネル製造装置、
メカトロ製品の設計・製造、テラヘルツ分光分析装置および赤外線分光装置の設計・製作など

URL：http://www.pnp.co.jp

聞き手：野村篤史（広報委員）岡田康弘（専務局長）取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ株式会社

PNP 半導体製造装置、検査装置の設計・製造のみならず
テラヘルツ分光分析装置で業界をリードする製造メーカー

— 御社の主な事業内容や主力商品などの特徴についてお聞かせいただけますか。

弊社の主な事業内容は半導体製造装置、検査装置および液晶パネル製造装置の設計・製造ならびにその周辺装置、関連機器の設計・製造、電子応用精密機器、計測装置およびメカトロ製品の設計・製造など広範囲にわたります。近年ではテラヘルツ分光分析装置および赤外線分光装置の設計・製作も徐々に実績を積んでいます。

弊社はもともと半導体の製造装置、検査装置からスタートしました。そのため半導体関連機器の売り上げが全体のおよそ75%を占めています。一方、テラヘルツ分光分析装置は弊社が日本ではじめて製品化に成功しました。これまで大学、研究機関など国内で約30台の納入実績があります。そのことから弊社は、テラヘルツ分光分析装置の製造に関してトップランナーという自負を持っています。これまでは主に受託設計・製造する形でお客様のニーズに対応して



日邦プレジジョン初の自社ブランド商品
「Tera Prospector」



非破壊・非接触で半導体の電気的特性が計測可能な
「Tera Evaluator」

経営資料

まいりましたが、3年ほど前に初の自社ブランド商品であるテラヘルツ汎用分光装置「Tera Prospector」、非破壊・非接触で半導体の電気的特性が計測できる「Tera Evaluator」を開発することに成功いたしました。

そもそもテラヘルツとはメガヘルツ、ギガヘルツの上の周波数で、光と電波の境界領域のことをいいます。十数年くらい前まではこの領域の周波数を使う技術が確立されておらず、テラヘルツの光を当てて分析すると、どのような挙動をするかが明らかになっていなかったため「未到の光」と呼ばれていましたが、近年になり、その技術が確立されました。

このテラヘルツ領域の分光測定ができるテラヘルツ分光装置は、非破壊で製品の内部検査が可能です。理化学研究所にも納入実績がありますし、医薬品の分析検査や空港のセキュリティチェック、半導体の物性評価などさまざまな分野への応用展開が期待されています。今後、テラヘルツの光によっていろいろな可能性があることを研究機関などにPRすることで、少しずつ市場を広げていきたいと思っています。しかしながら、年間で納入されるのはわずか数台あまりというのが現実で、市場の展望がなかなか見通せないという問題もあります。そのため大手の機器メーカーも参入しにくい市場になっていますが、却ってその点が弊社にとって独自性、優位性をもたらす付加価値となっています。

— 創業の経緯、また創業時の様子などをお聞かせください。

創業以前、私は総合商社に勤めていました。1960年(昭和35年)に名古屋に転勤になり、当時の新日鉄名古屋製鉄所で鉄鋼関係の仕事をしていました。

昭和30年代の鉄鋼業界は設備投資が盛んに行われていて「鉄は国家なり」「産業の米」と言われ、戦後日本の成長を支えていました。しかし、40年代末に好景気のピークを迎えた後、次第に生産量が減少し、50年代後半には鉄鋼関係は成熟産業と言われるまでになってしまいました。

そうした中、1965年(昭和40年)に私は上司と一緒に新しい会社を立ち上げ、ベンチャー企業として引

き続き鉄鋼関連の仕事に関わってまいりました。やがて50年代後半になると、これからは鉄鋼からエレクトロニクスの時代になると予見し、エレクトロニクス関連の仕事に関わっていききたいという思いを強くしてきました。それでも当時は半導体関係の分野はまだまだ未知数で不安もあり、会社としてなかなか進出できない状態でした。それでも、私はなんとしてもエレクトロニクスおよびオプトエレクトロニクス(光電子工学)関連の仕事をやりたい気持ちが強く、独立して1984年(昭和59年)に名古屋で「日邦プレジジョン」を設立しました。

設立当初、半導体製造装置は全量をアメリカから輸入していましたが、デバイスメーカーから強い改造要求があり、将来的には国産化に切り替えてコストダウンを図りたいとの要望がありました。これを契機に材料メーカー(新日鉄)、加工業者の協力を得て、「イオン注入装置」の心臓部にあたるマグネットと鉄心の納入を始めました。このほかにも、設計者を客先に派遣するなどして技術の習得にも努めました。また、オプトエレクトロニクス関連では、国内大学や研究所向けに特殊分析装置の設計・製造を手掛けました。

— これまで特に印象に残っている仕事や大変だとお感じになった出来事などがあれば、お聞かせください。

2007年(平成19年)、蕪崎に新第一工場が完成したのですが、その頃の経験は強烈に印象に残っています。液晶パネル製造装置の注文が立て続けにあり、超繁忙状態を極めていた頃とは一転して、工場が完成する2年ほど前から生産が減少し、生産調整期に入っていました。結局、調整期は約3年間にもおよぶ長いブランクとなりましたが、長年の経験から近い将来、液晶パネル生産は回復すると確信し、先行投資で工場を完成させた経緯があります。結果として読みが見事に的中し、工場が完成した2ヶ月後にはフル生産できる状態まで盛り返すことができました。

— これまで経営上、困難だと感じられた出来事や時期があれば、お聞かせください。

経営上、困難だと感じたことはふたつあります。ひ



大型クリーンルーム内での製造風景

とつ目は創業の翌年1985年（昭和60年）に工場を新設したその1ヶ月後に半導体不況に見舞われたことです。半導体の不況は「シリコンサイクル」とよばれ、4年に一度くらいの頻度で訪れます。当時は、社員を約20人ほど採用し、いつでもスタートできるように準備をしていた時期でしたから、収益的にたいへん厳しく、赤字が続きました。それでもリストラを断行したことはありませんし、社員の給与の減給、遅配や取引先への支払いの先延ばしをしたことも一度もありません。

ふたつ目の困難は、リーマンショックを無事切り抜けた2年後、それまで弊社の稼ぎ頭だった得意先のプラズマエッチング装置という半導体製造装置の生産が宮城県の工場にすべて移されることになりました。そのため弊社の利益は40%減少し、売上げも約30%減少してしまいました。

半導体業界はたいへん好・不況の波が顕著に表れる業界です。半導体製造装置はオーダーメイド商品ですから、お客さまから注文を受けないかぎり売上げにはなりません。そういった危機感を常に抱きつつ、それでも「半導体製造装置は必ず将来発展する!」という希望と「絶対に会社を存続させ、発展させるんだ!」という執念と気概を持って、資金調達や新規顧客の獲得に全力で取り組むことで困難な状況を克服してまいりました。

— 御社の経営理念や経営方針をお聞かせいただけますか。

弊社の経営理念は「人間尊重の立場に立って、活力と生き甲斐のある職場環境造りに努め、先端技術の研究及び開発・製造を通じて、社会の繁栄と発展に貢献する」です。

一方、経営方針としては「顧客の満足度を高め且つ堅実な社業の発展を成し、社員の福祉向上と豊かな生活の実現に努める」を掲げています。

— 御社の現在の課題、今後の事業目標などがあればお聞かせください。

先ほども申し上げましたが、弊社では半導体関連の売上げが全体の約75%を占めています。今後は半導体の依存度を減らし、半導体以外の分野、特にテラヘルツ関連に力を注ぐことで、将来的には50～60%ぐらいまで売上げを伸ばしていき、半導体関連と並ぶ経営上の大きな柱にしたいと考えています。

テラヘルツ関連の売上げを伸ばしていくにあたり、現在、開発・設計にあたる人材、マーケティングを含む営業力が不足していると実感しています。これらを補いながら、テラヘルツの分光装置をさまざまな業界へ拡販していくために分析受託および展示会などへの精力的な出展をしていきたいと思えます。



社内のメカ、エレキ、ソフトのプロが連携し、顧客のニーズに的確に対応



(左から) 秋山執行役員、古屋会長、佐藤執行役員、営業部降矢氏

— 座右の銘や心がけているモットー、敬愛する歴史上の人物をお聞かせください。

リンカーンの遺した「意思のあるところに道は開ける」が座右の銘です。また、「IMPOSSIBLE IS NOTHING (不可能なことはない)」という言葉も好きです。

利益とはお客さまの満足度の対価ですから、お客さまの満足度を上げること、気概と執念を持ってチャレンジを続けること、そして変化を厭わないことを日々心がけています。

山梨県・甲府市で生まれ育ったということもあり、郷土の戦国武将である武田信玄公を尊敬しています。戦略と戦術に長けていながら、人心掌握にも優れているところが魅力的ですが、それ以外に甲斐の国で度々発生していた洪水を防ぐために大規模な土木工事を行い、いわゆる「信玄堤」を築くなど、治水事業に取り組んだところも素晴らしいと思います。

— 趣味、あるいは休日を楽しまれていることがあればお聞かせください。

音楽鑑賞・美術鑑賞・ゴルフが趣味です。以前は東京、大阪、名古屋の音楽会に顔を出していましたが、現在は難聴のため足が遠のいてしまいました。

美術鑑賞をする際は、東京や住まいのある名古屋、山梨の美術館によく行きます。モネ、ピサロ、シース

レーなどの印象派の画家の絵画が好みですが、私と同じ山梨県出身の洋画家で、恩師でもある武田好文さんの絵も好きです。ちなみに社内に飾ってある絵画はすべて私が選んでいます。

ゴルフも好きで名古屋近辺のゴルフ場によく行きます。昔はお客さまの接待で毎週のようにゴルフに行ったものです。名門といわれるゴルフ場はだいたい回りました。ゴルフを兼ねた旅行にはいろいろなところに行きましたが、これからは足腰が丈夫なうちに国内外問わず、のんびり旅行に出かけてみたいですね。

— 最後に当協会についてご意見・ご要望などがあれば一言お願いいたします。

近い将来、テラヘルツの分光分析装置を活用していくうえで、現在、弊社が持っている技術だけでは対応不十分な局面が出てくると思われます。その際には、他業界の方々と協力して新たな技術開発およびシステムの構築をしていく必要があります。そこでバイオテクノロジー、先端材料分野など、異なる分野・業界の方々の技術や知恵をお借りすることが必要だと考えます。科学機器協会には異なる業界の方々を紹介していただいたり、役に立つアドバイスなどをいただいたりして、サポートしていただけるとありがたいです。まだまだ経験も少なく勉強不足なところがありますが、今後もしろいろとご指導・ご鞭撻をいただけると幸いです。